

砂原秀樹+菊地宏明+編集部

【アドバイザー】砂原秀樹
奈良先端科学技術大学院大学
情報科学センター助教授
WIDEプロジェクト・ボードメンバー

インターネットの



に答える



このコーナーでは、皆さんから寄せられたインターネットに関する質問や疑問にお答えします。分からないことや疑問はどんなことでもけっこうですので、編集部までお寄せください。メールアドレスは **ip-faq@impress.co.jp** です。なお、質問へのメールでの回答はできませんのでご了承ください。

今月のヘッドライン

- 1 ダイアルアップ接続のパスワードの保存
- 2 2か所で同じメールを受信する
- 3 「WIDE」について

Q

プロバイダーへのダイアルアップ

接続時に出るダイアログでユーザー名とパスワードを入れる際に、ユーザー名は最初から入っているのにパスワード欄だけを打ち込み、接続するとき「パスワードの保存」チェック欄にチェックを付けても、次回ダイアルアップ接続時になると、パスワードの保存のチェックが消えて、再びダイアログが出てきてしまいます。これは何が原因なのでしょうか。（愛知県 北川康治さん）

A

最初ウィンドウズを立ち上げたときに、パスワードを設定しましたか。これを行っていないと、コンピュータの使用者が特定できないため、ダイアルアップ接続をする際のダイアログで、パスワードは保存されません。というのは、ウィンドウズの立ち

上げでパスワードが設定されていないのにダイアルアップ接続でパスワードが保存できると、そのコンピュータを使う誰もがあなたのパスワードを使ってインターネットに接続できてしまうからです。

このため、まず最初にウィンドウズのパスワードを登録しなければなりません。そのやりかたを説明しましょう。「スタート」「設定」「コントロールパネル」を開いて、「パスワード」をダブルクリックします。「パスワード」画面が出るので、「ユーザー別の設定」タブで「ログイン時に各ユーザーのデスクトップ設定に変更する」にチェックを付けます。「OK」を押し、コンピュータを

再起動します。

すると、ウィンドウズが立ち上がる途中で、ユーザー名とパスワードを聞いてきます。ここで、その2つを入力します。

いったんこの作業をすると、ダイアルアップ接続のダイアログでパスワードの保存ができるようになります。

また、もともとネットワークの設定がされているコンピュータの場合（デスクトップ上に「ネットワークコンピュータ」アイコンがある場合）は、ネットワークの設定の再登録から始める必要があります。

（編集部）

ダイアルアップ接続のパスワードの保存

Q

自宅と会社とで、メールソフトをまったく同じ設定にしています。そこで、「サーバーにメッセージのコピーを残す」の設定をONにしていないうちに、会社でメッセージを受信しました。家に帰ってもう一度同じメッセージを受信したい場合、自分で自分にそのメッセージを再送または転送しない限りは、もう一度見られないと思うのですが、やはりそうなのでしょうか。自宅でゆっくりメールを見たいし、一方で同じものを会社でも見たいというような場合、一般にどのような方法がベストでしょうか。（北海道 関根政実さん）

A

複数の場所で電子メールを読むことはよくあります。そのために会社にあるデスクトップなど、主としてメールを読む側のコンピュータではメールを取り込んでから数日後にサーバーからメールを削除するよう設定し、自宅や出張先などのサブマシンではサーバーから取り込んだときにメールを削除しないようにします。これは、メインマシンが着信メールを取り込んだあとも、サブマシン側でも読めるようにするためです。メインマシンでは、着信したすべてのメールを読み込んでおき、これを保存するためのハードディスクを用意しておきます。メインマシンにすでに取り込んだメールも、設定した時間が経過したあとのアクセスで削除されますので、必要以上にメールサーバーに溜まることはありません。このようにすることで、メインマシンとサブマシンの両方でメールを読むことができます。単純で分

2か所で同じメールを受信する

かりやすい方法ですが、着信したメールが削除されるまでにサブマシンから読み出さないと、サブマシン側でメールは読むことができず、削除するまでの期限を延ばすとメールサーバーに蓄積されるメールが増えてしまいます。短期出張や自宅からの利用では、毎日アクセスできると仮定して2日程度がよいと思います。

問題は「メールサーバーにメールを残す」設定を禁止されている場合です。管理上の理由で読んだらすぐに削除することを義務づけられていたら、先の方法は使えません。

セキュリティ上の問題がなければ、シマンテック(株)のpcANYWARE 32やNetopia社のTimbuktu Proなどの画面共有リモートコントロールソフトを使って、自宅や出張先から会社のメインマシンをコントロールし、画面を表示させて着信メールを読むことができます。この方法では、サブマシン側にメールは保存されないで、メールをどこに保存したかを気にする必要はありません。

他のアドレスに転送して取り扱うこともできます。自宅でする個人アドレスへ転送して自宅で読むといいでしょう。これには、電子メールソフトのフィルター機能を使います。この方法では、あらかじめ転送条件や転送先を設定します。しかし、インターネットに常時接続されているならば効果的ですが、ダイヤルアップ接続には適しません。

また、他のアドレスに転送するやりかたとして、メールサーバー側の転送サービスを使う方法もあります。プロバイダーのホームページで設定や解除を行うものが多く、自分のアドレス宛てに届いたメールを事前に登録したメールアドレスへ自動転送できます。

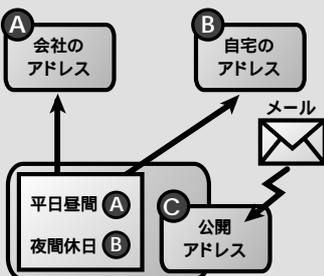
このほか、便利なのが電子メール専用プロバイダーが提供する転送サービスです。会社で使うアドレスをA、自宅でするアドレスをBとして、プロバイダーから新しくCというアドレスを発行してもらい、このCを会社や友人に教えます。平日昼間はCへのメールはAに転送させ、夜間や休日はBに転送するように切り替えます。切り替え方法はプロバイダーによって異なりますが、プロバイダーへメールを送って制御する方法が便利です。同じメールを読むという条件は満たされませんが、便利な機能です。

幾通りかの方法はあっても決定的なものがないのは、メールサーバーのほとんどがPOP3プロトコルを使っているためです。次世代のプロトコルとして注目されているIMAPならば、サーバーにメールを残したまま、必要なメールだけをクライアント側に読み込み、複数の箇所でもメールを読むことに対応できるようになるでしょう。（菊地宏明）

参考

pcANYWARE 32 [URL](http://www.symantec.co.jp/products/pca80/pcA80.htm) http://www.symantec.co.jp/products/pca80/pcA80.htm
Timbuktu [URL](http://www.dit.co.jp/products/) http://www.dit.co.jp/products/

【アドレスを別に取得する方法】



メール転送サービスを提供する主なプロバイダー

プロバイダー名	問い合わせ	転送先指定	サーバーへの保存	転送サービス利用料(月額)	転送先設定
BEKKOAME/INTERNET	0120-048-444	2、3程度	x	無料	WWW
BIGLOBE	0120-86-0962	1		一部有料	WWW
DTI	0120-830-501	1 (注1)		無料	WWW
Highway Internet	0120-403-410	制限なし	(注2)	試験運用中	TELNET
IJ	03-5259-6000	2		無料	WWW
Infoweb	0120-544-254	2		無料	WWW
Panasonic Hi-Ho	06-949-2342	制限なし		無料	WWW
teleway Sirius	0070-800-464955	1		100円	WWW
U-netSURF	03-5546-3085	1	x	無料	TELNET

(注1) FAXにも送信可(有料) (注2) 転送先に自分のアドレスも指定すればよい

Q

インターネットマガジンを購読して間もないのですが、よく「WIDE」という言葉が出てきます。これは、どのような活動をしているのでしょうか。

(今井典孝さん)

A

インターネットにかかっていると「WIDE」という怪しげな集団の話をよく聞かれます。この質問もいつか来るんじゃないかと思っていたのですが……。

WIDEプロジェクトは、インターネットにおける新しい技術の研究や開発、インターネットの利用・運用について研究を行う研究者の集まりです。僕自身もメンバーの1人でもあり、かつ、WIDEプロジェクトを運営するボードメンバーの1人でもあります。要するに、インターネットにかかわるさまざまなことについて考えている集団なのです(けっして怪しい地下組織ではありません)。

WIDEプロジェクトは、慶應義塾大学の村井純教授を代表として、インターネットがまだそれほど一般的ではなかった1988年に結成されました。当時は、現在のような形式のインターネットは日本にはなく、他の組織と協力してインターネットを日本に構築するということが最初の活動だったのです。現在では、大学、国立研究機関、企業の研究所などから300名以上のメンバーが参加しており、さまざまなテーマに取り組んでいます。

「WIDE」について

研究テーマは、本当に技術的なことから、「インターネット災害訓練」のようにインターネットの社会的な影響に関するものまで、多岐にわたっています。例えば、「IPv(バージョン)6」と呼ばれる次世代インターネットの基盤となる新しいプロトコルの研究が行われています。IPv6はすでにRFCが出されて基本的な部分は確立しています。しかし、ソフトウェアとして実現する場合や、システムの運用などで検討しなければならぬことが多く、WIDEプロジェクトではIPv6で動作するシステムを実際に開発し、それを用いて運用実験を行っているのです。この運用実験は「6bone」と呼ばれる世界的な運用実験の一部として行われており、次世代のインターネット開発の一翼を担っているわけです。

また、みなさんに直接関係のある活動としてはNSPIXPがあります。これは、インターネットサービスプロバイダー(ISP)の相互接続を行う場所で、そこでの運用技術の開発やサービスの提供方法についてISPとともに研究を行っているわけです。現在、東京で2か所(NSPIXP-1、2)、大阪で1か所(NSPIXP-3)の場所を用意して研究を行っています。ここでのデータの交換が円滑

に行われることが、日本のインターネット全体としてのデータの流通をスムーズにすることにつながりますから、快適なインターネットを構築するために重要な研究ということになります。

このほか、モバイルインターネットに関する研究や計算機を用いないインターネットアクセス方式の研究、インターネットFAXやインターネット電話、マルチプロトコルレイヤースイッチ技術、衛星通信を使ったインターネット構築技術、セキュリティ技術、インターネットを利用した教育などさまざまな研究活動を行っています。

これらの成果は、研究発表やソフトウェアの配布などによって公開されています。例えば、WIDE版のDHCPやsendmailの設定ファイル作成ツール、電子メールエージェントmewなどを使っておられる方も多いのではないのでしょうか。WIDE版のIPv6用ソフトウェアも間もなく公開される予定です。

WIDEプロジェクトは来年で10周年になりますが、今後もインターネットにかかわるさまざまなことについて研究を進めていく予定です。我々の成果は、あらゆる場面で積極的に公開していきますので、今後も我々の活動に期待していただきます。(砂原秀樹)



WIDEホームページ

URL <http://www.wide.ad.jp/>

左がWIDEプロジェクトのホームページである。より詳しい活動内容などについて知りたい場合には、ここを参照していただきたい。現在、WIDEプロジェクトで行われている研究活動などを知ることができる。

そのほか、このページから1月17日に行われる「インターネット災害訓練」についても知ることができる。

右はNSPIXPのホームページ。ISP間の相互接続に関する技術的問題について検討を行っている。



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp